

平成28年 4月19日

研究公開用文書

研究名： クローン病の累積手術率の時代的変遷についての検討（多施設共同後向き観察研究）
研究の概要： 若年発症が特徴であるクローン病では長期経過に伴い手術を要する例が多く、術式として小腸部分切除術や狭窄形成術などが行われますが、術後も再手術を要することが多く、内科的治療も併せて長期的な治療が必要な疾患です。本邦でのクローン病に対する手術成績を明らかにすべく、厚生労働省難治性疾患克服研究、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究のプロジェクトとして多施設共同研究によりアンケート調査を行い、東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学講座・腫瘍外科学が主任研究施設、教授渡邊聡明が主任研究者となり研究を行います。
研究対象： 2000年1月1日から倫理委員会承認日までに手術治療されたクローン病の患者さまが対象となります。これまでの診療でカルテに記録されている血液検査や尿検査結果、画像検査、病理検査などのデータ収集と各施設へのアンケート調査で行う研究です。特に患者さまに新たにご負担いただくことはありません。収集されたデータは、主任研究施設である東京大学医学部附属病院で解析されます。
研究責任者： 横浜市立大学附属市民総合医療センター 所属：炎症性腸疾患センター 氏名：木村英明
研究実施期間： 平成28年倫理審査承認日 ～ 平成33年3月31日
連絡先： 横浜市立大学附属市民総合医療センター 所属：炎症性腸疾患センター 氏名：木村英明 〒：232-0024 住所：横浜市南区浦舟町4-57 電話：045-261-5656